

令和6年度

# 黒部市教育センター事業の点検評価

## 報告書



令和7年3月  
黒部市教育センター

# 目 次

I	令和6年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	1
II	点検評価の結果	
1	児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1)	授業改善に向けた指導・援助の充実	2
(2)	令和のとやま型教育事業の推進	3
(3)	初任者、若年教員及び中堅教員の資質向上	4
(4)	特別支援教育研修会	5
(5)	一人一台端末の効果的な活用、デジタル教科書の活用	6
2	生徒指導・教育相談の充実	
(1)	生徒指導主事等研修会	7
(2)	いじめ問題等研修会・いじめ見逃し0の取組	8
(3)	教育相談の充実	9
(4)	不登校児童生徒に関わる取組	10
(5)	教育支援センターの運営の充実	11
(6)	SSW活用事業、いじめ対策SWの派遣事業の推進	12
3	特別支援教育	13
4	黒部国際化教育の充実	
(1)	外国語に関する授業の充実を目指す研究・研修	14
(2)	帰国児童生徒等に関する教育・研修の推進	15
5	学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1)	全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	16
(2)	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用	17
(3)	市科学展や発明くふう展への協力、吉田科学館との連携	18
(4)	社会科研究委員会、情報教育研究委員会	19
6	幼・保・こ・小・中学校の連携事業	20
7	迅速な教育サービスの提供	
(1)	情報提供	21
(2)	視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	22

# I 令和6年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

## 1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

## 2 点検評価の対象

令和6年度の黒部市教育センター事業

## 3 点検評価の方法

(1) 「令和6年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる項目に基づき、事業内容ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	達成度の目安
A A	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員9名において、客観的な視点で検討する。

### 【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	岡本 薫	小学校長会会長（桜井小学校）
運営副委員長	柴田 由明	中学校長会会長（清明中学校）
運営委員	小倉 信宏	次長・学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	若島 肇	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	福澤 祐子	こども支援課長（黒部市市民福祉部）
運営委員	寺島 紀子	小学校教育研究会会長（村椿小学校）
運営委員	川端 浩嗣	中学校教育研究会会長 生徒指導連絡協議会会長（明峰中学校）
運営委員	平田 恩	帰国児童生徒教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	中森 晴美	小中学校教頭会会長（石田小学校）

(3) 報告及び公表



点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。

## Ⅱ 点検評価の結果


### 1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

事業・研修会名	<b>1－(1) 授業改善に向けた指導・援助の充実</b>
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導助言し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通常訪問では、各教科等の授業を参観し、部会協議会において、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。</li> <li>○ 1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、初任教員や若手教員の授業を中心に参観する。授業後の懇談では、若手教員の悩みや話を聞くことを中心に面談をする。必要に応じて、学級経営や授業の進め方、子供の対応等について指導助言する。</li> </ul>
点検・評価	<b>A</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常訪問では、東部教育事務所指導主事とともに部会協議会において指導助言を行った。学校運営や授業等について気付いたことをまとめ、各学校に報告した。また、校長研修会において、学校訪問研修の概要（前期・後期）をまとめ、報告した。</li> <li>・市教委・市教セによる学校訪問では、日頃困っていることや悩んでいることを話せるよい機会となった。子供の対応や保護者への対応に悩んでいる若手教員が多く、真摯に向き合うことで子供や保護者との信頼関係ができてくること、一人で悩まずに周りを頼ることの大切さなどを伝えた。また、指導場面におけるよさを具体的に認めることで、初任教員や若手教員の自信につながり、次への意欲をもつ手助けができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常訪問は、各校のニーズに応じて、研修日程や研修内容を主体的に各学校が決定できるようになっている。市教委・市教セによる学校訪問は、若手教員の応援をすることを中心に、精神的・時間的負担にならないように進めていくようにしている。また、各校、各教員の課題に応じて実施できるように、事前の打合せや事後の情報共有を丁寧に行っていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1－(2) 令和のとやま型教育推進事業
内容・方策	<p>R5年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果から、学習に対する興味関心がどの教科（国、算・数、英）も全国よりも低いことが分かった。確かな学力につながる「問題発見・解決能力」の育成は、まず何よりも児童生徒の学習意欲を高め、主体的に取り組もうとする態度が大切であると考えた。そこで、今年度の研究課題を「主体的に学ぶ児童生徒の育成」とし、研究推進校を清明中、中央小として取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究推進校での取組</li> <li>○ 学力向上に関する研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>【日時・場所】7月29日（月）コラーレ マルチホール</li> <li>【演題】「相互に学び合う学習集団づくり」</li> <li>【講師】上越教育大学 教授 水落 芳明 先生</li> </ul> </li> <li>○ i-check を活かした学級経営について <ul style="list-style-type: none"> <li>【日時・場所】8月9日（金）黒部市教育センター</li> <li>【演題】「学力向上のカギは非認知能力にあり」</li> <li>【講師】東京家政大学 非常勤講師 山浦 秀男 先生</li> </ul> </li> <li>○ 研究の報告書作成と報告会での発表</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究を始めるにあたって、清明中、中央小、センターが集まって研究推進委員会を開催し、黒部市の今年度の研究課題が「主体的に学ぶ児童生徒の育成」であること、「とやま型学力向上プログラムⅢ期」と一体的に推進すること、報告会は各校で発表することなどを共通理解を図った。</li> <li>・ 推進校では、共通の研究課題を基に自校の児童生徒の姿から具体的な研究テーマを設定して研究を進めた。</li> <li>・ 講演の内容が「大変参考になった」「参考になった」の割合が、「学力向上に関する講演会」100%、「学力向上に関する研修会」100%であった。講演会の中で、講師の話聞くだけのスタイルではなく、近くの先生方と話し合っ意見交換をしたり、子供の実態を基に実際に分析を試みたりするなど、先生方が主体的に参加するスタイルであったため、充実感が大きくなったものと考えられる。</li> <li>・ 報告会の発表に向けて研究推進委員会を開催し、発表の仕方や内容について共通理解を図った。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県や魚津地区教育センター協議会が主催する研修と重ならないようにテーマの設定を工夫するよう努める。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の推進事業から解明したことを生かし、次年度も同じ研究テーマを設定して、研究校を絞って深まりのある研究をしていく。</li> </ul>

事業・研修会名	1－(3) 初任者、若年教員及び中堅教員の資質向上にかかる研修
内容・方策	<p>初任者、若年教員がそれぞれ集まり、学級経営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、気持ちを楽にしたり、横の連携を強めたりし、互いに相談し合える体制を構築できるようにする。</p> <p>今年度より、初任者に加え、2・3年次教員の研修の場を設けた。</p> <p>＜学級経営研修会（新規採用者対象）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1・2回【4/3、5/10】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式前、着任1ヶ月後と相談が必要と思われるタイミングを見計らって研修（グループトーク）を実施。</li> </ul> </li> <li>○ 第3回【7/8】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導講話 講師：若島 肇 学校教育班長</li> <li>・振り返りのグループ協議（悩みや課題に対する手立て等）</li> </ul> </li> <li>○ 第4回【8/2】郷土を学ぶ研修会に参加</li> <li>○ 第5回【1/10】5年後の自分からのメッセージ</li> </ul> <p>＜チーム学校を支えるマネジメント研修会（2・3年次教員対象）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2年次教員【5/8】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級集団づくりプログラム</li> </ul> </li> <li>○ 3年次教員【5/21】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級集団づくりプログラム</li> </ul> </li> </ul> <p>＜郷土を学ぶ研修会（新規採用者・黒部市に異動してきた教員対象）＞</p> <p>【日時・場所】8/2 うなづき友学館、愛本橋周辺、YKKセンターパーク</p> <p>・講師：生涯学習文化課 ジオパーク推進班長 王生 透先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>・教師が安心して仕事をしていくためには同僚性の構築が重要だと思われる。学校内以外でも横のつながりを築くため、今年度も黒部市内の新規採用者が和気あいあいと話し合い、次への活力を養えるよう集まりの場を設定した。加えて、2・3年次教員にも集まりの場を設定し、気軽に困っていることを出し合った。参加者は、同期としての仲間意識を高め「何も分からない状態なのは自分だけなのかと不安でしたが、同期の方と話してみると同じ悩みを抱えていることが分かり、とても安心しました。」等の感想が寄せられた。</p> <p>・郷土を学ぶ研修会の参加者は、市外在住の教員が多く、事後アンケートで「大変参考になった・参考になった」と答えた教員が100%と満足度が高かった。愛本橋をVR体験したり、扇状地の様子を実際に見ながら解説してもらうことで、実感をもって黒部のことを学ぶことができるよい機会となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<p>・若手の先生方の不安を少しでも和らげられるよう、互いの情報交換の場を大切にしたり、先生方のニーズに合う研修内容となるように改善を図ったりしていきたい。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</p>

事業・研修会名	1 - (4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援を必要とする児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○ 特別支援教育に関する講演会（実施、受講者 112 名）</p> <p>【日時】 8 月 22 日（木）黒部市教育センター</p> <p>【演題】 「障害のある子供と障害のない子供が笑顔で学ぶ学校づくり」</p> <p>【講師】 県インクルーシブ教育推進員 浜松 英久 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援教育の視点を生かしたちょっとしたワークショップを取り入れながら、対話を通して児童生徒の様子、背景、ニーズ等を把握し、強みを発揮できるような場の設定の大切さについてお話ししていただいた。</li> <li>・ 研修後の事後アンケートでは、91.7%の教員が「大変参考になった、参考になった」と回答した。「紹介された取組を実践しよう」という意欲の高まりが多く見られた。</li> <li>・ 各学校の特別支援教育コーディネーターの参加が多く、学校の先生方に研修の内容を伝えたい、との感想が見られ、伝達講習の材料とすることができた。</li> <li>・ 演題から、学校づくりに関する内容を期待していた教員がいた。内容と演題の整合性を事前に確認する必要があった。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の研修との重なりがあり、参加者のほとんどが特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターであった。インクルーシブ教育は障害の有無の垣根を越えた内容であるため、通常級の担任等、多くの教員が受講できるよう努める。</li> <li>・ 教職員からは、実際に現場で行われている工夫や、すぐに生かせる参考事例を教えてほしいといった声が多い。研修内容によってはグループ活動が可能な小規模の研修会が向いている場合もあり、目的に応じて研修会のスタイルを検討していく。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も、夏季休業中に講師を招聘して市の研修会を行う。通常級の担任や通級指導教室の担当者を対象の中心とし、特別支援教育の視点を活かした授業づくりや学級づくりの具体例を学び、すぐに生かせるような研修を設定する。</li> </ul>

事業・研修会名	1-(5) 一人一台端末の効果的な活用、デジタル教科書の活用																
内容・方策	<p>黒部市の児童生徒の情報活用能力の育成及び向上を目指して、情報教育研修会や情報チェックシートを活用したセルフチェックに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1回情報教育研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>【日時】5月9日(木) 市教セ 参加9名</li> <li>【講師】総合教育センター 科学情報部 東海 直樹先生</li> <li>【演題】ネットの正しい活用について～情報モラルへの理解を深める研修～</li> </ul> </li> <li>○ 第2回情報教育研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>【日時】6月4日(火) ZOOM 参加20名</li> <li>【講師】総合教育センター 科学情報部 阿久津 理先生</li> <li>【演題】「teams」を活用したICT活用指導力の向上を図る研修</li> </ul> </li> <li>○ 第1回～3情報教育委員会【5/9 6/4 2/10】 <ul style="list-style-type: none"> <li>黒部市小中学校の情報活用能力育成に向けての具体的取組</li> <li>※詳細については5-(4)参照。</li> </ul> </li> </ul>																
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に情報教育研究委員の先生方にアンケートを実施し、Teamsの活用状況や具体的に研修したい内容を調査し、ニーズに合った研修を行った。TeamsでのExcelシートの共同編集や先進校の活用方法についての紹介、Formsを活用した小テストの作成、Canva、Figjamの紹介等について講師の先生から教えていただいたり、児童生徒になったつもりで実際に演習をしたりした。</li> <li>・株式会社ライズより、eライブラリのリニューアルポイントや授業での活用方法について直接教えていただいた。また、本年度は、3校でeライブラリの活用に関する出前研修を実施した。児童生徒のeライブラリの活用状況については昨年度を大幅に上回った。</li> <li>・Canvaを活用して、市内教員からデジタル教科書の効果的な活用方法の実践事例を収集し、QRコードから確認できるようにした。</li> </ul> <p>eライブラリの活用状況について</p> <table border="1" data-bbox="454 1579 1380 1720"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習指示実施率</th> <th>ドリル学習実施回数(1人あたり)</th> <th>ログイン回数(1人あたり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>63.0%</td> <td>199回</td> <td>49.8回</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>67.3%</td> <td>136回</td> <td>33.8回</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>59.8%</td> <td>149回</td> <td>40.6回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度2月末時点での小・中学校合わせた数値</p> 		学習指示実施率	ドリル学習実施回数(1人あたり)	ログイン回数(1人あたり)	R4	63.0%	199回	49.8回	R5	67.3%	136回	33.8回	R6	59.8%	149回	40.6回
	学習指示実施率	ドリル学習実施回数(1人あたり)	ログイン回数(1人あたり)														
R4	63.0%	199回	49.8回														
R5	67.3%	136回	33.8回														
R6	59.8%	149回	40.6回														
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度、児童端末の更新を予定しており、児童生徒がスムーズに端末に慣れ親しんでいけるように、全教員が事前に必要な情報を共有したり、指導事項について研修したりできる場を検討していく必要がある。</li> </ul>																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度は、課題として見えてきたことを基に、教職員の研修を深め、授業や校務におけるICTの効果的な活用や情報の共有を図っていく。</li> </ul>																



## 2 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	<b>2－(1) 生徒指導主事等研修会</b>
内容・方策	<p>生徒指導主事等の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。児童生徒を9年間で育てるという視点と、小中連携の意識向上のため、中学校区ごとのグループで情報交換や生徒指導上の課題の共有を図る。</p> <p>【第1回 5/17】「SNS 危険防止研修会」 講師:黒部警察署生活安全課 河合 正輝 先生</p> <p>【第2回 6/14】「いじめの加害者への対応の在り方について」 講師:宇奈月小学校 教諭 島瀬 容子 先生</p> <p>【第3回 11/8】「不登校・不登校傾向の児童生徒への対応」 講師:東部教育事務所 生活指導主事 植野 昌弘 先生</p> <p>【第4回 2/12】「【改訂版】いじめ見逃し0宣言について」 講師:東部教育事務所 主任生活指導主事 尾島 賢治 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>【第1回】5月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察が対応した SNS に関するトラブルや事件等について、事例を基にお話しいただいた。学校での注意喚起の重要性を改めて感じることができた。</li> <li>・健全活動少年団顧問会の開催 黒部市防犯協会 山田事務局長 参加</li> </ul> <p>【第2回】6月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度、内地留学で学んだ「いじめの加害者への対応の在り方」について伝達講習をしていただいた。加害者となった児童生徒へも丁寧に対応することの大切さを学ぶことができた。</li> </ul> <p>【第3回】11月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校について、全国や富山県の現状を交えながら、教師間の連携、情報共有、チームで対応することの大切さを事例をもとにお話しいただいた。生徒指導の根底には、児童生徒理解があることを改めて確認することができた。</li> </ul> <p>【第4回】2月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「【改訂版】いじめ見逃し0宣言」を資料とし、いじめ見逃し0のためのポイントや、いじめに関する児童生徒や保護者対応について説明していただいた。具体例を基に対応の留意点を学ぶことができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区ごとの情報交換の時間を確保し、児童生徒の様子や校区内の危険箇所、各校の生徒指導上の対応の具体について話し合いがなされた。事例研修や、生徒指導上の課題について意見交換するような時間をつくることで、学校にとって要である生徒指導主事の力量をさらに高める時間を設定したい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2-(2) いじめ見逃し0の取組、いじめ問題等研修会</b>
内容・方策	<p>①いじめ問題や関連して起こる不登校の問題について「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。「いじめ見逃し0宣言」を改訂し、より丁寧な対応に努める。</p> <p>②いじめ見逃し0を目指す視点シートの活用、いじめの実態把握（認知件数の報告）を促し、市全体で共有して対応を考える。</p> <p>③「いじめ問題等研修会」年2回実施（4月18日、2月12日・小・中学校教頭を対象に、いじめの未然防止や早期発見、適切な対処について研修を深める。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>① 昨年度に改訂した「黒部市いじめ防止基本方針」に即して、「いじめ見逃し0宣言」を改訂した。</p> <p>② 毎月、各学校からの報告をまとめて校長会で対応を話し合った。いじめ認知について小委員会を開催し、校長会で共通理解した。認知件数は多くなったが、学校のいじめ認知に対する丁寧な看取りがなされるようになったと捉えている。</p> <p>③ 【第1回】 4月18日  講師:黒部市教育委員会 学校教育班長 若島 肇 先生  ・年度当初に当たり、黒部市教育の方針や教頭の役割等について、全小・中学校教頭が共通理解を図り、職務上大切にすべきことを改めて確認した。具体的な場面を提示し、教頭としてどう対応すべきか投げかけ、考えることができた。</p> <p>【第2回】 2月12日  講師:東部教育事務所 主任生活指導主事 尾島賢治 先生  ・「いじめ見逃し0宣言」の改訂の際に助言をくださった尾島主任より、いじめに関する児童生徒や保護者への対応についての留意点や、組織で対応する際のポイント等を、具体的なページを挙げながらお話ししてくださった。改訂した冊子を活用し、より丁寧な対応を心がけようという気持ちと、校内研修等で対応について共通理解しようという意欲が高まった。</p>
課題・改善	<p>・どの学校も、未然防止、早期発見、早期対応を心掛けて全教職員が協力し合って取り組んでいる。いじめ防止対策推進法をもとに認知や報告について市として再確認していかなければいけない。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</p>

事業・研修会名	<b>2－(3) 教育相談の充実</b>																																																																																											
内容・方策	<p>教育支援センター「ほっとスペース」と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者、児童生徒、教員の悩みや課題の解決に向けて支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者向けの教育相談の案内を安全メールで、年3回送付する。</li> <li>○ 保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や児童生徒の支援にあたる。</li> <li>○ 市教委・市教セによる訪問や学校訪問において、教員の悩みや課題を把握し、要望に応じて継続的な支援に繋げる。</li> </ul>																																																																																											
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>・相談件数と主な内容（令和7年2月14日現在）</p> <table border="1" data-bbox="432 663 1385 1245"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>高校生</th> <th>その他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">来所相談</td> <td>28</td> <td>14</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td colspan="2">電話相談</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td colspan="2">訪問相談</td> <td>34</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td colspan="2">巡回相談</td> <td>11</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SNS等オンラインを活用した相談</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>100</td> <td>51</td> <td>1</td> <td>12</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">内 数</td> <td>いじめに関する相談</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>不登校に関する相談</td> <td>48</td> <td>22</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>いじめを除く友人関係に関する相談</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>教職員との関係をめぐる相談</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>学業・進路に関する相談</td> <td>53</td> <td>32</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>家庭に関する相談</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・学校不適應問題、学校や担任との関係等、寄せられた相談内容については、しっかりと受け止め丁寧に対応するように努めた。相談内容については、相談者の了解のもと学校に連絡するなど、迅速な連携を心がけた。</p> <p>・教育支援センター指導員やSSWとの連携を密にし、効果的な支援につなげた。</p> <p>・保護者からの相談電話では、教育相談の案内やHPを見て連絡される保護者が多かった。また、定期的に相談をする保護者も複数見られた。保護者の不安や悩みを受け止める場の一つとして、有効であると考えた。</p>						区分		小学生	中学生	高校生	その他	計	来所相談		28	14	0	8	50	電話相談		27	26	1	3	57	訪問相談		34	9	0	1	44	巡回相談		11	2	0	0	13	SNS等オンラインを活用した相談		0	0	0	0	0	計		100	51	1	12	164	内 数	いじめに関する相談	2	0	0	0	2	不登校に関する相談	48	22	0	6	76	いじめを除く友人関係に関する相談	6	1	0	1	8	教職員との関係をめぐる相談	7	7	0	3	17	学業・進路に関する相談	53	32	1	1	87	家庭に関する相談	4	1	0	2	7
区分		小学生	中学生	高校生	その他	計																																																																																						
来所相談		28	14	0	8	50																																																																																						
電話相談		27	26	1	3	57																																																																																						
訪問相談		34	9	0	1	44																																																																																						
巡回相談		11	2	0	0	13																																																																																						
SNS等オンラインを活用した相談		0	0	0	0	0																																																																																						
計		100	51	1	12	164																																																																																						
内 数	いじめに関する相談	2	0	0	0	2																																																																																						
	不登校に関する相談	48	22	0	6	76																																																																																						
	いじめを除く友人関係に関する相談	6	1	0	1	8																																																																																						
	教職員との関係をめぐる相談	7	7	0	3	17																																																																																						
	学業・進路に関する相談	53	32	1	1	87																																																																																						
	家庭に関する相談	4	1	0	2	7																																																																																						
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容によっては、市教委や関係機関と連携して対応していく必要があり、連絡を密に取りながら協力体制を整えておきたい。</li> <li>・相談電話の際、電話の内容が聞き取りづらいことがあり、相談業務に支障を感じるがあった。電話機の交換等、よりよい環境づくりを求めている。</li> </ul>																																																																																											
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>																																																																																											

事業・研修会名	<b>2－(4) 不登校児童生徒に関わる取組の充実</b>
内容・方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不登校の現状と対応について把握し、情報を整理して各校や市教委と共有したり、必要な支援に関する情報を提供したりする。</li> <li>○ 不登校を未然に防いだり、対応への理解を深めたりするための研修を実施する。</li> <li>○ 教育相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。</li> <li>○ 小中学校、市教委、教育支援センター、SSW等の連携が円滑に進むように連絡調整に努める。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導に関する月例報告により、各校の長期欠席児童生徒や別室登校児童生徒の様子や学校の対応について把握し、校長研修会で共有するとともに、市内の不登校（学校に出席しない日数が30日以上）の数を市教委に報告した。</li> <li>・生徒指導主事研修会で東部教育事務所の生活指導主事を講師として招聘し、不登校について、全国や富山県の現状を交えながら、教師間の連携、情報共有、チームで対応することの大切さを、事例をもとにお話しいただいた。【2－(1)】</li> <li>・不登校に関する保護者からの教育相談がある。【2－(3)】保護者の思いに寄り添って傾聴するとともに、児童生徒の良さや強み、多様な学び方や進路に目を向けるような助言を行った。また、学校と情報共有をした。</li> <li>・児童生徒への様子や対応について、関わる人々や関係機関を繋げるよう努めた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校を生まない教育環境づくりのために、教員の資質向上の機会を今後も設定する。（児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり、特別支援教育の視点を大切にした学級づくり、思いやりの心を育む集団づくり等）</li> <li>・不登校対応は、個に応じて様々な配慮が必要である。多様な視点をもつことができるよう、事例や情報を共有できるようにする。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(5)教育支援センターの運営の充実</b>
内容・方策	<p>教育支援センター「ほっとスペース」において、通所している小・中学校の不登校児童生徒やその保護者に対して、学校と連携を図りながら様々な指導、支援を行い、児童生徒の集団生活や社会生活への適応、社会的自立への足がかりとなるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通所児童生徒の実態に即し、成長に役立つ活動を実施する。</li> <li>○ 相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。</li> <li>○ 関係小・中学校及び市教委、関係機関と連携しながら児童生徒の支援を行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度通所した児童生徒 10（小学生6、中学生4）である。</li> <li>・通所している児童生徒の状況に合わせ、個別の指導計画を立てて指導にあたった。市教セから教育支援センターに適宜訪問し、指導員とこまめに連絡・相談することにより、児童生徒や保護者への適切な支援・対応に努めた。また、在籍校には、月ごとに出席日数及び児童生徒の活動報告を学校に届けるとともに、学校からの月例報告にある通所児童生徒の学校での様子について、教育支援センターと共有した。</li> <li>・学期の始めには、通所児童生徒への支援・対応について情報を共有した。</li> <li>・富山県総合教育センターから研究主事が2名訪問した。児童生徒の支援について、現状を共有した。</li> <li>・保護者と指導員等、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ、月1回）を設けている。保護者同士で悩みや情報を共有したり、人とつながったりするよい機会となっている。また、かつての利用者が集まって懇談する場（するめの会、年1回）も設け、互いの成長を分かち合って楽しく時間を過ごすことができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援センターと学校との連絡やケース会議の時間をもつことができるよう、時間の調整やICTの活用等を工夫していく必要がある。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや中学校のカウンセリング指導員・協力員との連携や、相談員の研修への参加により、一人一人に応じたより効果的な支援に繋げていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(6) S S W活用事業、いじめ対策S W派遣事業の推進</b>
内容・方策	<p>いじめや不登校等、学校・家庭が抱える課題に対応するため、S S Wを派遣し、課題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各中学校及び教育センター所属のS S Wが学校の要請に応じて、家庭訪問したり電話連絡したりして、課題を抱える児童生徒やその保護者との面談を行う。</li> <li>○ 関係機関等とのネットワークを活用し、学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等について協議し、支援内容を学校に連絡したり、学校で一緒に協議したりする。</li> <li>○ S S Wが小・中学校を訪問し、S S Wの役割についての説明や活用促進の呼びかけを行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>&lt;板東S S W&gt; 2中学校区所属  清明中学校と校区の小学校、明峰中学校と校区の小学校を基本として巡回勤務した。県 420 時間+36 時間  働きかけをした対象者(実数) 児童生徒 30 名、家族 27 名</p> <p>&lt;能沢S S W&gt; 教育センター所属  年間を通して明峰、清明中学校を勤務の基本として対応した。  体調不良により 11 月で退職。 県 69/105 時間  働きかけをした対象者(実数) 生徒 9 名</p> <p>&lt;森下いじめ対策S W&gt; 教育センター所属  清明中学校と明峰中学校に勤務した。県 70 時間+37 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問や個別面談により児童生徒や保護者に働きかけたり、教員に助言したりすることを通して、学校不適應の状況改善に繋げることができた。</li> <li>・就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にS S Wの役割について広く知らせることができた。</li> <li>・社会福祉協議会主管の「くろベネット」によるケース会議や学校のケース会議にも参加し、支援体制づくりを行った。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S Wの資質向上のための機会（研修会）を積極的に知らせる。</li> <li>・各校への定期的な巡回は基本とし、必要な学校には連絡・調整を図りながら、重点的に支援できるような体制を整える。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

### 3 特別支援教育

事業・研修会名	<b>3 必要に応じた学校訪問、小中学校の特別支援教育への指導助言</b>								
内容・方策	<p>市全域に関わる特別支援教育コーディネーターとして、特別支援教育の対象となる児童生徒やその家族が、必要な配慮やサポートを受け、将来を見据えた学校生活を安心して送ることができるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の相談窓口となる。</li> <li>○要請に基づいて学校へ訪問し、担任や関係者の支援(コンサルテーション)を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒のアセスメント(聞き取り、行動観察、諸検査等)を行う。</li> <li>・児童生徒への接し方、学習環境、校内体制等について、具体的、継続的な支援を行う。</li> <li>・必要に応じて保護者面談に参加する。</li> </ul> </li> <li>○研修会等を通して、特別支援教育に関する理解・啓発を図る。</li> <li>○地区相談会、市教育支援センターのケース会議、市特別支援教育コーディネーター研修会、市教育支援委員会に参加し、関係者や関係機関との連絡調整に当たる。</li> </ul>								
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の相談 → 2-(3)教育相談の充実 参照</li> <li>・学校支援(令和7年2月末現在 市教育支援委員会関係は除く)</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">担任等支援 (ケース会議含む)</th> <th style="text-align: center;">保護者面談 (三者懇談等)</th> <th style="text-align: center;">検 査 (WISC 等)</th> <th style="text-align: center;">計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3 3</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">4 1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市スタディメイト研修会、市特別支援教育コーディネーター研修会、市中教研特別支援教育部会、県総教セ「特別支援教育講座」において、講師として理解啓発に努めた。</li> <li>・学童保育所からの要請で児童観察および支援を行ったが、時間的な制約が多く、該当する小学校との連携も含め、関係者全体で情報共有できる方向を探る必要がある。</li> <li>・保護者や担任、関係者からの相談に対しては、それぞれの立場を尊重しながら話を聴き、事実関係を確認して、解決志向で話し合うことができた。保護者からの相談では、承諾を得た上で学校との連絡調整を行い、次の支援体制へつなぐことができた。</li> </ul>	担任等支援 (ケース会議含む)	保護者面談 (三者懇談等)	検 査 (WISC 等)	計	3 3	7	1	4 1
担任等支援 (ケース会議含む)	保護者面談 (三者懇談等)	検 査 (WISC 等)	計						
3 3	7	1	4 1						
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援を行った後の校内の支援体制の見直しや、児童生徒の様子について、継続して情報共有を行う。</li> <li>・次年度就学予定の年長児については、市教育支援委員会での実態調査以外にも、必要に応じて支援に関する相談に対応できるように、学校教育課やこども支援課と連携を図りたい。</li> </ul>								
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>								

#### 4 黒部国際化教育の充実


事業・研修会名	4-(1) 外国語に関する授業の充実を目指す研究・研修の推進
内容・方策	<p>黒部国際化教育推進のため、各種事業のうち特にコミュニケーションの基礎力養成のための諸活動の企画運営をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各部会の開催と専門部会の充実</li> <li>○外国語教育に関する研修会の開催</li> <li>○授業公開月間の企画・運営・評価</li> <li>○英語の指導に関する指導計画やまとめの作成、指導と評価の一体化や連携の在り方等の検討</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織部会を年2回、企画・運営・評価部会を年3回、外国語教育研究部会を年3回開催した。組織部会では、黒部国際化教育の各事業についての協議と評価を行った。企画・運営・評価部会では主に授業公開月間の運営の仕方について話し合った。外国語教育研究部会は、英会話定例会と統合し、市内の英語教育に携わるメンバーが一堂に会して、授業力向上に向けて授業参観と意見交換を行った。</li> <li>・外国語教育研修会を8月に開催した。岡崎先生を講師として、児童生徒の資質・能力の育成を図るための外国語の授業における「個別最適な学び」「協働的な学び」について理解を深め、授業力の向上を図った。</li> <li>・小学校1、2年英会話、中学校英会話科の授業力向上を目的として、今年度より授業公開を毎年行うこととした。村椿小、中央小、若栗小、清明中、明峰中で計9コマの授業が公開され、来校者数は5校合わせて、保護者112名、その他53名であった。</li> <li>・今年度の黒部国際化教育の推進事業に関して、活動の記録やアンケートの結果をまとめたり、今年度の取組を基に令和7年度の年間指導計画を作成したりした。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の重点を明確にし、各専門部会の組織を生かしながら各種事業を展開したり、授業力向上に向けた取組を継続したりしていく。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、黒部国際化教育の在り方について、児童生徒の実態から、市教委及び校長会と協議をして改善に努める。</li> </ul>




事業・研修会名	4－(2)帰国児童生徒等に関する教育・研修の推進
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活や生活様式に適應できるように支援する。（黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める）</p> <p>① 帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。</p> <p>② 保護者会やサマースクールの開催、会報「Access」の発行を行う。</p> <p>③ 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>① について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央小1名（4年生外国人児童）、たかせ小2名（1，4年生外国人児童）、生地小1名（3年生帰国児童）、清明中2名（1，2年生外国人生徒）の付き添い指導をしている。外国人児童生徒が学習内容や教師の指示を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明することで、安心して活動に参加することができるよう、サポートしている。</li> <li>・生地小、たかせ小、桜井小、中央小、若栗小、宇奈月小に外国の文化や生活についての掲示を貸し出し、国際理解のきっかけづくりに努めた。</li> </ul> <p>② について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回保護者会（6/15 中央小学校 保護者6名参加）</li> <li>・第2回保護者会（12/7 中央小学校 保護者5名、子供4名参加） 親子活動では、ポップコーン作りを行った。懇談会では、海外で身につけた言語の保持、日本語の取得等の言語について話題になった。</li> <li>・サマースクール（8/1 黒部市内 保護者8名、子供16名） YKK センターパーク、まきばの風くろべ牧場でソフトクリーム作りを体験した。</li> <li>・会報 Access や教育センターのホームページ、YKK 教育相談室だよりで、一時帰国等の家庭にも広く情報を発信している。</li> </ul> <p>③ について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外研修報告 桜井小学校 教諭 中山 智成 先生</li> <li>・帰国児童生徒教育研究会 全体研修会（5/23 教育センター） 「中国の小学校生活～40年前と今～」 講師 李 鵬 氏</li> <li>・国際理解教育研修会（10/24 黒部市教育センター） 「外国人児童生徒の支援の実際とこれからの富山県の展望」 富山大学教育学部 准教授 宮城 信 先生</li> <li>・県外研修報告や講師による講演会を通して、多文化共生の視点を持ち、国際教育への理解を深めるとともに、帰国児童生徒や外国人児童生徒への支援の一助とすることができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任と連携を図り、個々の児童に応じた指導を継続する。</li> <li>・多くの親子に保護者会やサマースクールに参加してもらえるよう、魅力的な活動を工夫していきたい。</li> <li>・来年度も国際教育について参加者全員が知見を深めることができるような研修内容を検討したい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

## 5 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	5－(1) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小・中学校の児童生徒の学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、校長研修会で概要を報告する。さらに報告書としてまとめ、各学校に配付する。報告書は小・中学校における学力向上のための参考となる内容にする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和6年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査（国語、算数・数学）や児童生徒質問紙調査の結果について、その概要を冊子にして報告した。</li> <li>・結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」「児童・生徒質問紙調査結果と各教科の調査結果との相関関係」「児童生徒質問紙調査の経年比較」等を示し、小・中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。各教科の問題については、全国と比べて平均正答率が低い問題について分析し、提供した。</li> <li>・教科に関する調査においては、小学校国語、中学校国語、中学校数学は全国平均を上回ったが、小学校算数は全国平均を下回った。</li> <li>・児童生徒質問紙調査においては、教科の学習に対する意識、学習への意欲という点に課題があることが分かった。</li> <li>・学校質問紙調査の結果を示すことで、学習指導要領が求める資質・能力を確認し、授業改善等に生かすことができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の結果を受けて、授業改善をどのように進めるのか、児童生徒の教育環境をどのように整えるのかなどについて、情報交換や意見交流する場を設定することが望まれる。その際に、報告書の冊子を活用した研修を実施するなど、工夫が考えられる。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	5-(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国が実施している「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や富山県が実施している「令和6年度富山県児童生徒体力・運動能力調査」を生かし、市内小・中学校の児童生徒の体力・運動能力の向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○ 昨年度から体力測定結果をタブレットで入力して県に報告しデータを共有している。結果については学校ごとにダウンロードできるようになっている。市としてのおおまかな結果のみを連絡することとする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査の結果を「令和6年度体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果の概要」としてリーフレットでまとめ、各校に配付した。報告が年度末になるため、この結果を、来年度に向けて各校の教育計画につなげていけるよう、周知していく必要がある。</li> <li>・「とやまげんきっこチャレンジ」を利用したタブレットでの個人結果入力により、各校への県からの報告は11月頃までに届く。それぞれの学校で結果をもとに課題をあげ、対応策を考えて実践していくのが効果的だと思われる。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の結果を来年度の教育計画やアクションプランの作成に生かすことができるように、なるべく早く結果の概要を知らせていく。また、黒部市としての課題改善を進める場合は、体育主任等で意見交換をするなど、結果を活用する場を設定していく必要がある。</li> <li>・心身や生活習慣の大切さについて、県からのお知らせとともに各家庭に働きかけていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も細かい分析はせず、結果のみの報告とする。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>5－(3) 市科学展や発明くふう展への協力、吉田科学館との連携</b>									
内容・方策	<p>吉田科学館との連携事業を通して、児童生徒の自然や宇宙の事象に対する見方・考え方を育て、科学的に判断したり処理したりする能力を養うとともに、旺盛な探究心と豊かな想像力を育成する。</p> <p>① 市科学展や発明くふう展への理解啓発活動を行う。</p> <p>② 小学4年生、中学3年生を対象としたプラネタリウム学習を企画する。</p>									
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>① 市科学展・発明工夫展 ※ ( ) 内は前年との比較。  <b>【魚津地区理科自由研究・発明くふう参考展】</b>  6月22日～6月30日  展示作品数 41点 (-1)  [魚津6点、黒部16点、入善18点、朝日1点]  参考展来場者数 128名 (-86) 来館者数 545名 (-323)  <b>【第19回黒部市少年少女発明くふう展】</b>  小学校の部 113点 (+27)  [低学年19点、中学年52点、高学年42点]  中学校の部 12点 (-3)  発明くふう展 会期中の来館者数 1160名 (+278)  <b>【第19回科学作品展】</b>  小学校の部 44点 (+4)  [低学年12点、中学年15点、高学年17点]  中学生の部 8点 (-3)  [1年生4点、2年生3点、3年生1点]  科学作品展 会期中の来館者数 862名 (+118)  ② プラネタリウム学習  <b>【担当者事前研修会】</b> 6月7日 小学校5名参加  <b>【小4プラネタリウム学習】</b> 6月～9月実施 8校 (児童311名)  ・4次元デジタルビューワーMitaka 視聴 4校  ・サイエンスショー見学 4校  <b>【中3プラネタリウム学習】</b> 1月実施 2校 (生徒362名)  ・アンケート結果より</p> <table border="1" data-bbox="485 1507 1310 1626"> <tr> <td></td> <td>小学校</td> <td>中学校</td> </tr> <tr> <td>大変参考になった</td> <td>5校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>3校</td> <td>0校</td> </tr> </table> <p>&lt;その理由より一部抜粋&gt;  ・平面では理解しにくい内容を立体的に宇宙から俯瞰でき、理解しやすかった。  ・身近な場所や日時設定等、自分たちの生活に合わせたシナリオは、児童にとって受け入れやすかった。</p>		小学校	中学校	大変参考になった	5校	2校	参考になった	3校	0校
	小学校	中学校								
大変参考になった	5校	2校								
参考になった	3校	0校								
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉田科学館の職員の方のサポートもあり、スムーズに科学作品や発明くふうの作品の展示会を行うことができた。</li> <li>プラネタリウム学習については、各校の要望が反映されるように担当者間の連絡調整を行い、事前研修会についても、小中学校共に希望を調査して実施する。</li> </ul>									
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>									

事業・研修会名	<b>5－(4)社会科研究委員会、情報教育研究委員会</b>
内容・方策	<p>社会科研究委員会では3、4学年で使用する「わたしたちの黒部市」の内容を見直し、最新の情報となるよう修正をする。</p> <p>情報教育研究委員会では、黒部市の児童生徒の情報活用能力の育成及び向上、及びGIGAスクール構想の推進を図る。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p><b>【社会科教育研究委員会の開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の社会科教育研究委員が集まり、3・4年生で使用する「わたしたちの黒部市」の内容を見直し、地図や数値等が最新の情報となるよう修正をした。</li> </ul> <p><b>【情報教育研究委員会の開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報活用能力の育成」を目指し、昨年度作成した「黒部市情報チェックシート」を活用し、市内小中学生に自分の今の状態をチェックしてもらい実態把握をした（7月、1月）。</li> <li>・「黒部市情報チェックシート」を各学校でどう活用したかや、課題等についてCanvaを使用しながら情報共有を行った。</li> <li>・各学校や黒部市全体の結果をもとに、昨年度よりも改善がみられた項目（ローマ字入力）、指導すべき項目（図や表の活用、プログラミング等）を共通理解して情報活用能力の育成に取り組んだ。</li> <li>・研究委員会はペーパーレスとし、事前に配布した資料を各自が端末にダウンロードするなどして実施した。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしたちの黒部市」のデジタル化も視野に入れつつ、可能かどうか模索していく必要がある。また、授業での効果的な活用方法について社会科研究委員会で検討していく必要がある。</li> <li>・情報教育研究委員会の回数を増やしてほしいという要望が複数あった。学校ごとの取り組み状況や効率化のアイデアなど、短時間でもよいので頻繁に情報共有していくことで黒部市全体のタブレット活用や情報活用能力の育成につながるので、オンラインでの情報交換の機会を設けるなど在り方を検討していく必要がある。</li> <li>・センターのWi-Fi環境が悪いため、クラウドを使った研修ができないことが複数回あった。モバイルルーターを2台にしたところ改善がみられたが、大人数の研修には対応できないので場所や研修方法を検討する必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

## 6 幼・保・こ・小・中学校の連携

事業・研修会名	<b>6 幼・保・こ・小・中学校の連携</b>
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校（園）訪問において、幼稚園、小学校・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。</li> <li>○ 中学校区ごとに生徒指導や教科指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、各種研修会での情報交換の在り方を工夫する。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導に関する研修会や協議会においては、中学校区ごとにグループを編成し、小・中学校教員が情報交換や指導方針を共有できるようにした。</li> <li>・各校の生徒指導におけるケース会議において、SSWや中学校のカウンセリング指導員・協力員が参加して、情報を共有し、切れ目のない指導・支援ができるように配慮した。</li> <li>・外国語教育研究委員会、情報教育研究委員会等において、小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流できるよう配慮した。</li> <li>・幼稚園での訪問研修では小学校との連携・接続、小学校の訪問研修では中学校への連携・接続を念頭に置いた指導助言や情報共有を行った。</li> <li>・幼・保・こ・小・中の連携を意識した事業につながる今後のロードマップについて検討した。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の教育が小学校低学年の学習に円滑に接続されるように、小学校の通常訪問において、接続の視点をもって指導助言にあたる。</li> <li>・生徒指導主事等研修会や特別支援教育研修会等で、小・中学校の切れ目のない指導・支援を意識して、研修会や研究委員会等の内容を設定していく。</li> <li>・市主催の研修会の参加を、幼稚園、保育所、こども園の先生方にも呼びかけ、同じ視点で子供理解を深められるようにするなどの工夫も考えられる。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

## 7 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	<b>7-(1) 情報提供、研究成果の還元</b>
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>○不審者情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小・中学校に連絡する。 (熊情報については市教委から連絡する)</p> <p>○報告書や資料の作成については、市教委や各部長（担当校長）と連携しながら取り組む。</p> <p>○教育センターだよりを発行し、市内の教員や学校の取組の紹介、市内の教育の動向や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報については、情報が入ってきたものは市教委と連携し、内容について相談しながら、確実に対応することができた。黒部市教育センターから市内の全保護者に不審者情報の安全メールを流すこととした。（28回）</li> <li>・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等、関係機関に相談しながら進めた。市教委や校長会等、関係機関からは、様々な助言をいただき、それらに基づいて報告書や提案を改善した。</li> <li>・教育センターだよりやHP等を通して、教育センターでの研修、新規採用教員の紹介、教育委員、特別支援教育コーディネーターからの教育への思い、教員や各学校の研修報告、教育支援センターの様子等、幅広く紹介することができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報については、迅速な対応が求められる。最近は保護者が直接警察に連絡し、警察からの安全メールが流れ、それを受けて教育センターから学校の安全メールを流すことが増えた。新年度に全保護者に警察の安全メールへの登録を再度促すようにしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>7-(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷</b>
内容・方策	<p>学校行事の運営支援や教育指導、教員研修の質的向上に資するために、書籍や教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりといった教育サービスを行う。</p> <p>○ 視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。 ○ 大型プリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。</li> <li>※2月末の数値。( )内は前年との比較。</li> <li style="padding-left: 20px;">◇視聴覚教材 12件 (-62)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇プロジェクター等の教具 2件 (+2)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇WISC-IV等の検査類 5件 (+1)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇教科書 136冊 (+64)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇書籍 44冊 (-68)</li> <li>・大型プリンターによる印刷物の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇垂れ幕 17件 (+3)</li> </ul> </li> <li>・本棚に種類ごとに整理して、見やすい展示となるように工夫した。</li> <li>・新規に購入した書籍・教材等については、「おすすめ書籍」として、教育センターだよりに載せて周知に努めたり、研修会の際に宣伝したりした。</li> <li>・研修会後に貸し出しを進めたが、利用者があまり多くなく、視聴覚教材も書籍も貸し出し数は減少した。</li> <li>・大型プリンターによる印刷については、職員の連携により、迅速に対応し、依頼の翌日には各校へ提供できるように努めた。小学校の他、研修会や研究会でのニーズがある。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期初め等に視聴覚教材や書籍の希望を呼びかけているが、必要感に迫られないためか要望が少なかった。時期を変えて要望を聞いてみるようにしたい。</li> <li>・資料をデータでほしいという声が増えているので、学校共有間に「お助け箱」をつくって資料提供している。</li> <li>・現場で役立つ資料の用意ができるように、最新の教育課題をもとに調査を進め、整備を行うとともに、さらなる広報活動の工夫が必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、令和7年度も継続する。</li> </ul>